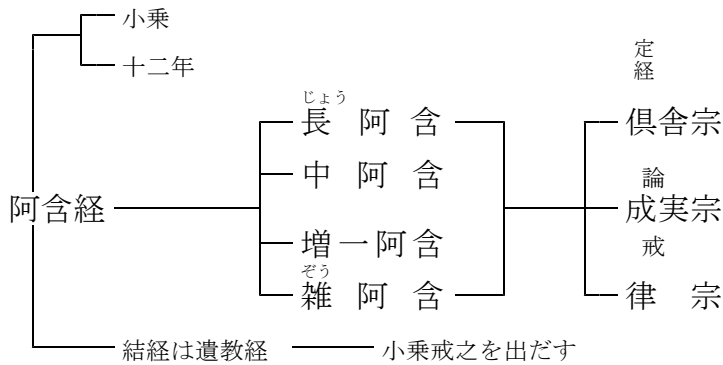
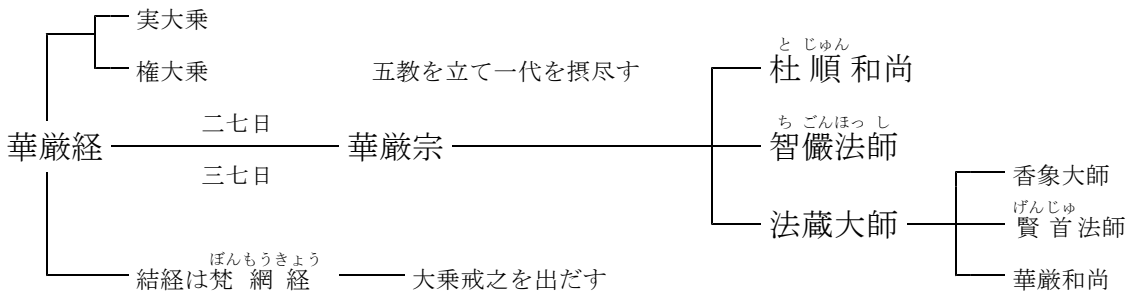


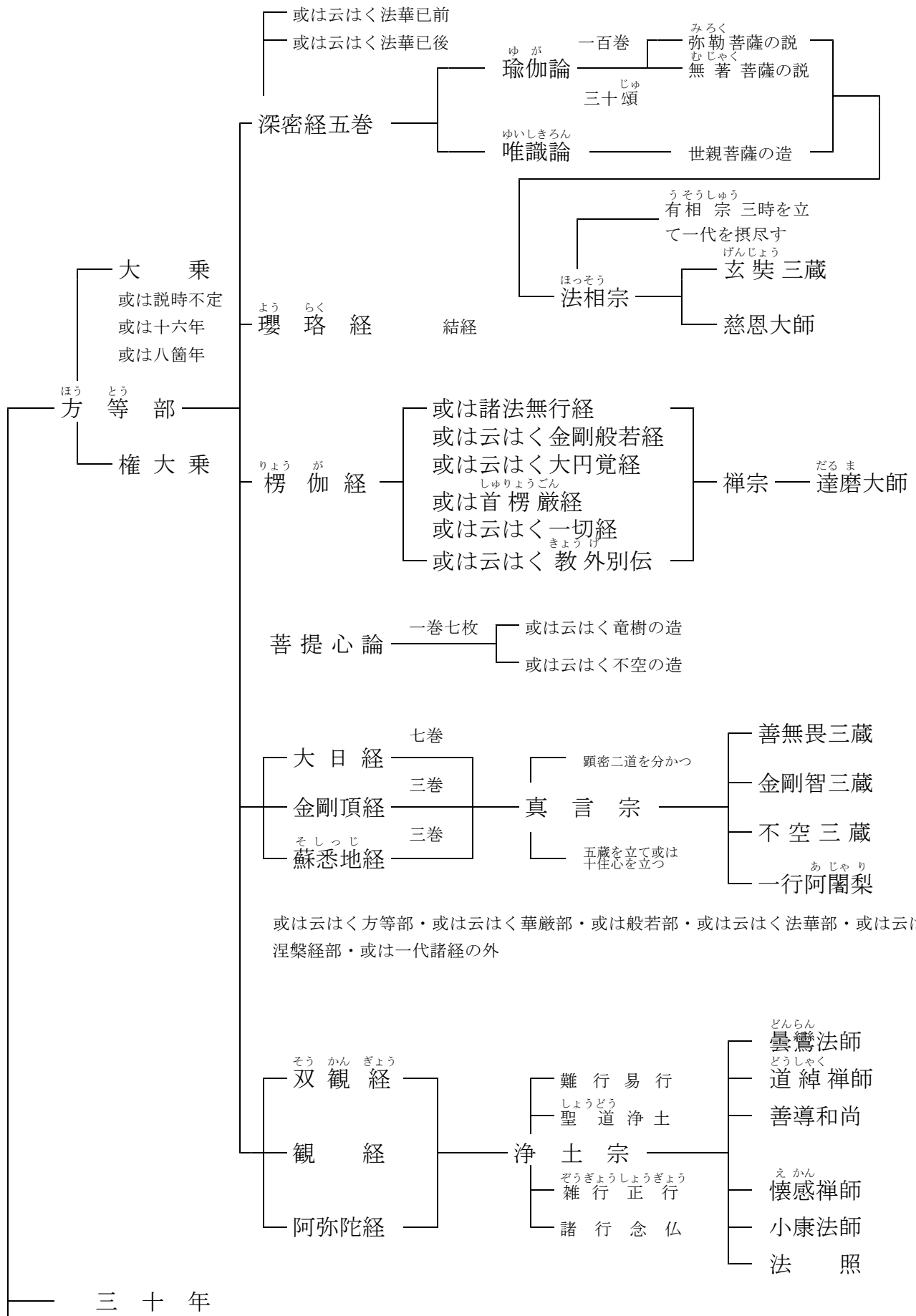
三十万偈

大悲方便論 十万偈

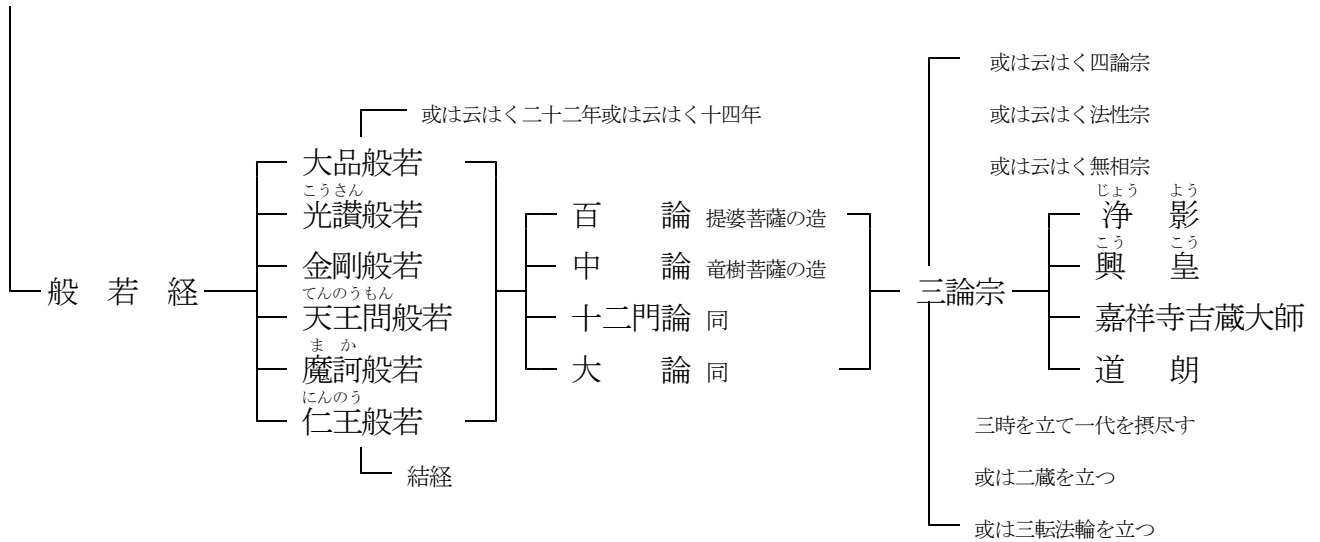
大心論 十万偈

大無畏論 十万偈



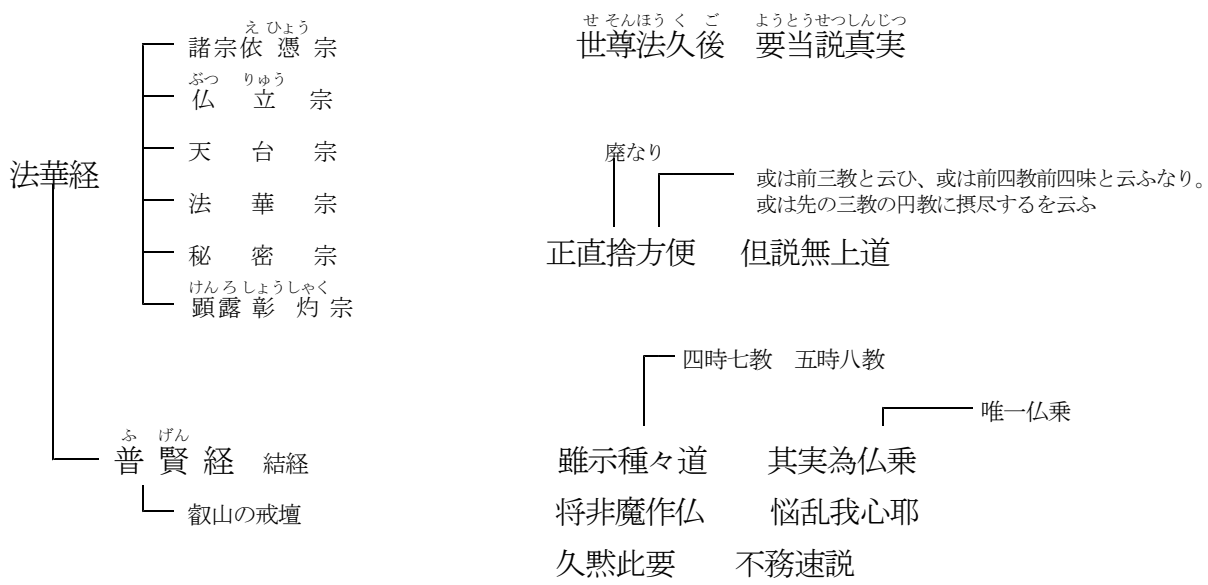


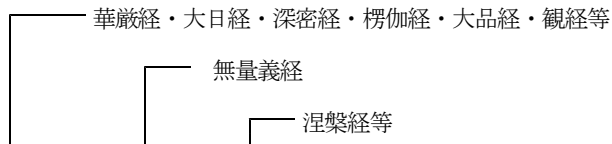
三十年



華嚴三七日・阿含十二年・方等般若三十年・已上四十二年なり。
 法界性論に云はく四十二年

無量義經に云はく「方便力を以ての故に四十余年には未だ真実を顕はさず」
 又云はく「無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐるとも終に無上菩提を成ずることを得ず。所以は何。菩提の大直道を知らざる故、險徑を行くに留難多きが故に」
 又云はく「大直道を行けば留難無きが故に」

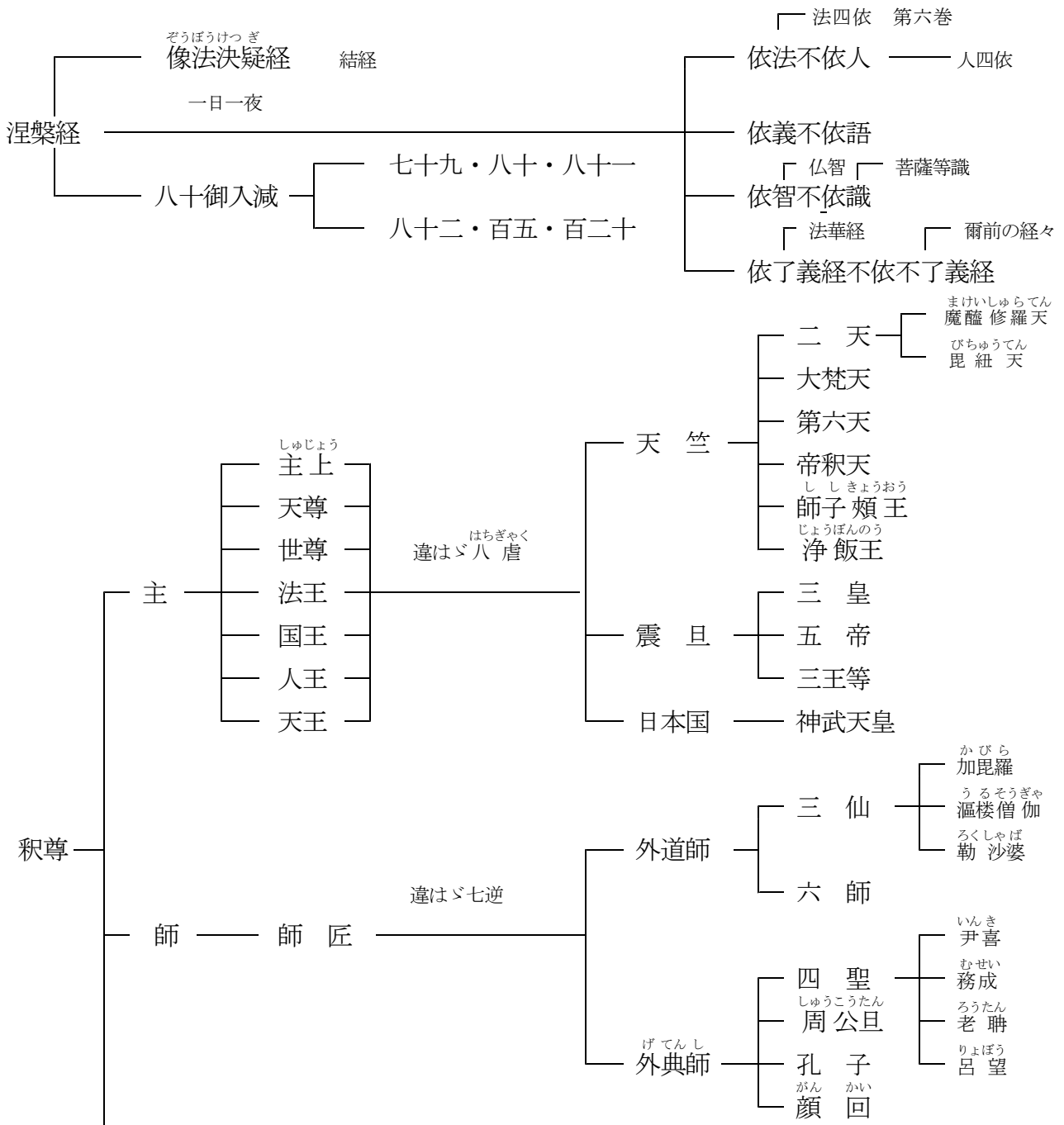


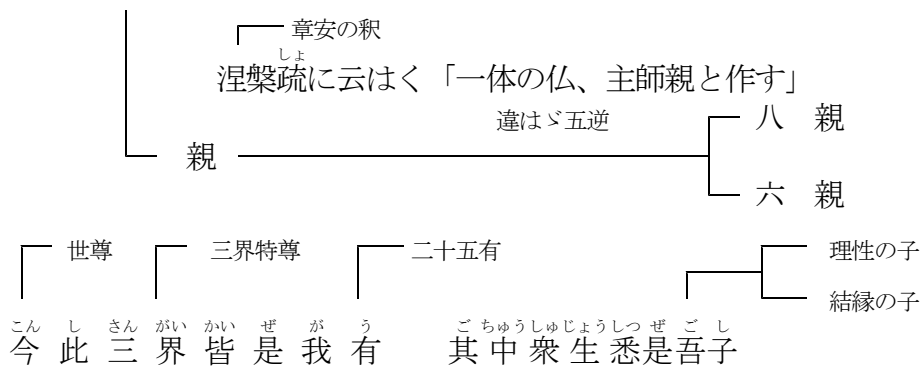


「我が所説の經典は無量千万億にして已に説き今説き當に説かん。而も其の中に於て此の法華經は最も為れ難信難解なり」

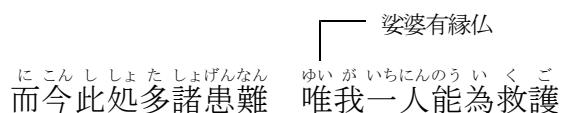
記の六に云はく「縦ひ經有って諸經の王と云ふとも已今當説最為第一と云はず。兼但對帶、其の義知んぬべし」玄の三に云はく「舌、口中に爛る」と。籤の三に云はく「已今當の妙此に於て固く迷へり。舌爛れて止まざるは猶華報となす。謗法の罪苦、長劫に流る」

又云はく「諫曉すれども止まず」





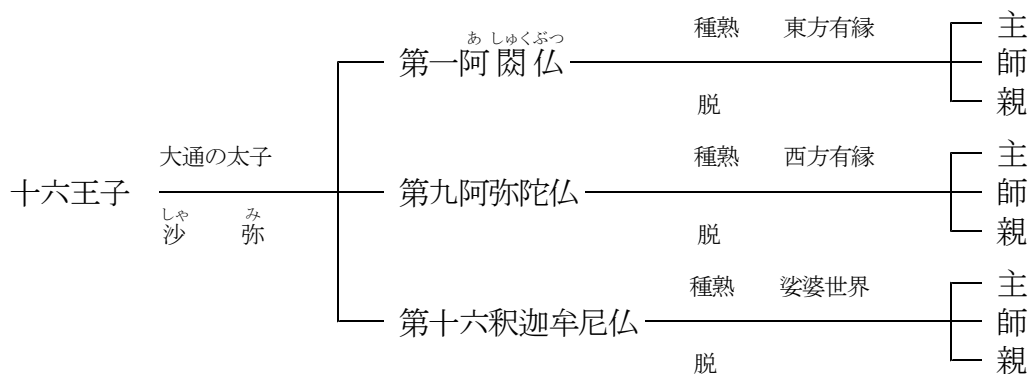
文句の五に云はく「一切衆生等しく仏性有り。仏性同じきが故に等しく是子なり」



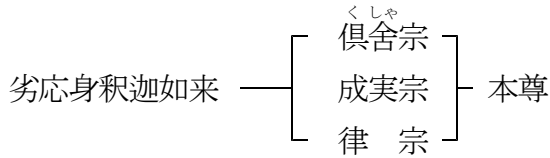
女の六に云はく「本、此の仏に従って初めて道心を発こし、亦此の仏に従って不退の地に住す」

文句の六に云はく「旧は西方の無量寿仏を以て、以て長者を合す。今は之を用ひず。西方は仏別に縁異なり。仏別なる故に隱顕の義成ぜず。縁異なる故に子父の義成ぜず。又此の經の首末に全く此の旨無く。眼を閉ぢて穿鑿す○舎那の著脱は近けれども尚知らず。弥陀は遠きに在り、何んぞ嘗て変換せん」云云。

記の六に云はく「西方等とは弥陀・釈迦の二仏既に殊なり。豈、弥陀をして珍玩の服を隠さしめ、乃ち釈迦をして弊垢の衣を著せ使めん。然も釈迦は珍服の隠すべき無く、弥陀は唯勝妙の形なるに当たる。況んや宿昔の縁別に化道同じからざるをや。結縁は生の如く成就は養の如し。生養の縁異にして父子成ぜず。珍弊、途を分ち著脱殊に隔たり、經を消する事欠け調就の義乖けり。当部の文に永く斯の旨無し。舎那著脱等とは、舎那の動ぜずして而も往くに迷へり。弥陀の著弊は諸教に文無し。若し平等意趣を論せば彼此奚んぞ嘗て自ら矜らん。縦ひ他を我が身とするも還って我が化を成ず。我他の像を立つれば乃ち他の縁を助く。人之を見ざれば化縁便ち乱る。故に知んぬ、夫の結縁とは並びに応身に約することを。我昔曾て二万億等と云ふが如し。況んや十六王子の始めより今に至りて機感相成し任運に分解するをや。是の故に彼の弥陀を以て此の変換となすべからず」と。



記の九に云はく「初め此の仏菩薩に従って結縁し、^{また}還此の仏菩薩に於て成就す」
 玄の六に云はく「仏尚自ら分段に入つて仏事を施作す。有縁の者何ぞ来たらざるを得ん。
 譬へば百川の海に潮すべきが如し。縁に牽かれて応生すること亦復是くの如し」
 又云はく^{聖賢}「本此の仏に従つて初めて道心を発こし、亦此の仏に従つて不退の地に住す」



^{るしゃなほうしん} 盧舍那報身 ———— 華嚴宗の本尊

┌ 勝応身に当たる

积迦如来 ———— 法相宗の本尊

┌ 勝応身に当たる

积迦如来 ———— 三論宗の本尊

┌ 法身 胎藏界

大日如来 ———— 真言宗の本尊

┌ 報身 金剛界

┌ 天台は応身 劣応
勝応

阿弥陀仏 ———— 浄土宗の本尊

┌ 善導等は報身

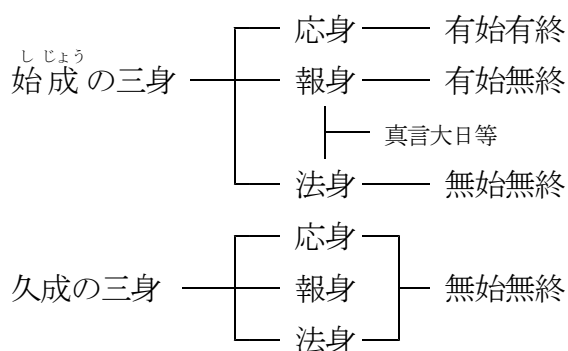
五百問論に云はく「若し父の寿の遠きを知らざれば復父統の邦に迷ふ。^{いたずら}徒に才能と謂ふとも全く人の子に非ず」と。三皇已前は父を知らず、人皆禽獸に同ず。

┌ 華嚴のルサナ、真言の大日等は皆此の仏の眷属たり

┌ 久遠実成実修実証の仏

天台宗の御本尊

┌ 积迦如来



華嚴宗真言宗の無始無終の三身を立つるは、天台の名目を盗み取りて自らの依經に入れしなり。